

## 第2編

● 6月29日(月) 晴 「恵庭岳」(1319.7m)

・朝3時過ぎに目覚め外を見るとまだ真っ暗。フェリーは波穏やかな日本海を快走していた。4時頃には明るくなり朝靄にかすむ小樽方面が近くに見えてきた。4時半に定刻通り小樽港に接岸、まず例の自衛隊の車両から下船開始。幸い私は比較的早めに下船できた。

・フェリーターミナルで朝の支度を整え一路支笏湖北岸の恵庭岳登山口を目指した。天気は晴、登山口には7時前に到着。すでに数台の車が止まっている。入山記録から、私の前には神戸のご夫婦が6時半に登っている。私は7時に登山開始、空には真夏の太陽が輝いている。はじめのうちは緩斜面の林の中を歩く。

ズダヤクシュやいろいろなランが咲いていて花も多く気持ちの良い登りだ。1時間ちょっと歩いて一休み、汗を拭いて水を補給。ここから急坂が始まり、そのうちに小石がごろごろした悪路の急登坂となる。要所要所に張られたロープをたよりに四苦八苦して第一展望台に到着した。天気は良いのだが全体に霞んでいて正面の風不死岳、足下の支笏湖がぼんやりと見える。眼下には恵庭岳の噴火口が足下から抉れて見え、上へ辿ってゆくと恵庭岳の岩峰が間近に迫りすごい迫力だ。



<第一展望台から恵庭岳を仰ぐ>

・一休みしてから第二展望台へ急ぐ。第二展望台から先は十勝沖地震で登山道が崩壊したため通行禁止、ここから先は行けない。なんとここに「恵庭岳山頂 1319.7m」の標識板をもって木の枝と岩にロープでぶら下げた。下山する神戸のご夫婦とは途中ですれ違い頂上(第二展望台)には私一人、20分位居たが誰も来ず展望を独り占め出来た。

・10時に下山開始、第一展望台までの尾根道にはオオバタケシマランやウコンウツギが所々に咲いて癒してくれる。下り道で登ってくる4~5人とすれ違った。とにかく小石ごろごろの悪路をロープ頼りに必死に下って急坂を征し、そのあと花の多い林間の気持ちいい緩斜面を歩いて11時半に無事下山した。

・とにかくかいた汗を早く流したいので今夜の宿泊予定地のモラップキャンプ場へ向けて支笏湖岸を走った。今回の旅の初日を飾って泊まろうと思ったキャンプ場は、風呂が700円、



<第二展望台：ここが現在の山頂>

駐車料金 500 円とすべて有料で高い、そのうえ明日登る予定の風不死岳用の食料を調達するためのコンビニがこの一帯にはなく、20 km以上先の恵庭市まで行かなければならない。



<ズダヤクシュ>



<オオバタケシマラン>

それならこんな所に高い金を出して泊まる必要など全くない。とにかく汗だらけのシャツをなんとかしたい。幸いにも駐車場のトイレの前に水道があったので、シャツ、パンツを着替えて洗濯をした。車の中に干して風で乾かしながら恵庭へ向かった。

・30 km近く走ってラフォレ温泉に飛び込んだ。毎年来ているので場所はよく分かっているし、なにしろ安いし(380円)露天風呂もあり良い風呂だ。月曜日というのに客がいっぱい、この辺でも人気のスポットらしい。温泉にゆっくり浸かって船旅と山の疲れを癒し、途中でガソリンを入れて、道の駅「花ロード恵庭」に今夜の宿泊地を定めた。この駅は毎年何回かお世話になっており、今まで何回泊まっただろうか。なかなか上品で良い駅だ。



<最初の夜は 道の駅「花ロード恵庭」で>

・風が強くなり気温もかなり下がってきた。ジャンパーを着込み夕食は車の中だ。ビールを飲みながらパソコンに今までの写真を取り込み、飯を食いながら日記を書いている。酔いと疲れでいい気分になった、外はまだ明るいがそろそろ寝るか。天気は下り坂とのこと。

明日はまた支笏湖へ戻り風不死岳へ登る予定だが・・・ お休み。

● 6月30日(火) 雨で「風不死岳」中止

・朝4時前に目が覚めて外を見ると雨模様、どうするか。

4時半に起床、雨は明かっているがやけに寒い。天気予報では天気は良くない。顔を洗いテレビを見ながらサンドイッチと牛乳で朝食をとっていると、空が明るくなったような気がする。とにかく樽前山の駐車場まで行ってみることにした。

・6時前に出発し昨日来た道をまた支笏湖へ向けてひた走る。樽前山へ入る洗濯板の砂利道は一昨年と変わっていないが、今日は雨模様なので砂埃が立たないだけ走りやすい。

7時前に駐車場に着いたが、誰もいない、車は私一台のみ。誰もいないし、風は強いし、山はガスで全く見えないし、とにかく寒い。今回の風不死岳は中止しよう、と思っていると、雨が本格的に降り出した。こりゃだめだ、と退散、洗濯板の砂利道に戻った。

・今回の山紀行、帰り道またこの辺りを通るので、その時天気が良ければ登ることも出来る。とりあえず今朝来た道、昨日も走った道を恵庭に向けて引き返した。

・道の駅「サーモンパーク千歳」に寄り、昼食を取ったりダイソーやホームセンターへ行って買い物をしたりしてゆっくりした。昼過ぎに今日の宿泊予定地、道の駅「みついし」へ向けて出発、南下するにつれて天気も良くなり薄日も差してきた。

無料の高速道路を快適に走っていたので道の駅「鶴川」に寄らず通り過ぎた。高速を下りて海岸線の気持ちいい道を更に南下、道の駅「サラブレッドロード新冠」で一休み。ここはハイセイコーで有名で、とともにレコードの駅としてもユニークだ。

・3時半ごろ本日の宿泊予定地・道の駅「みついし」に到着、薄日が差しており、明日の天気を期待する。パソコンに写真を取り込んでから蔵三昆布温泉でゆっくり暖まり、食堂でかわいいの唐揚げを肴に生ビール2杯。ほろ酔い気分で7時過ぎ就寝。



<樽前山駐車場は私の車1台だけ>



<サーモンパーク千歳で昼食>



<道の駅「みついし」>

・周りには大分、山口、徳島、滋賀など西の車ばかりが止まっている。ここは関西か！！

● 7月1日（水） 曇 「楽古岳」中止 アポイ岳へ

・朝4時起床、空はどんより曇っている。ここみついしから楽古岳登山口までは1時間ちょっとで行けるので今日楽古岳を登ってしまおうかと思ったが、天気が悪いので明日の天気を期待しよう。サンドイッチ、牛乳、コーヒーの朝食をとりテレビを見ながらのんびりすごした。でも 昨日から便秘ぎみ、昨夜から何度もトイレへ行って踏ん張るが、なかなか顔を出してくれなくて苦しい。七時まえやっと親指大のが一個出たが、あんまり踏ん張ると脳溢血が心配だからほどほどに。

・最悪なことに8時過ぎに雨が降り出した。これからの行動計画を練っているが、とにかく楽古岳登山口の楽古山荘まで行ってみることにした。雨もあがってきたし、すぐ近くだから昼頃までここに停滞しテレビで気象情報を十分確認してから出かけよう。10時前にやっと便秘開通、すっきり気分良し。少し早いけど楽古岳登山口に向けて出発するかと車に乗ったがエンジンがかからない、なに！故障？！ えらいこっちゃ！ JAFに電話すると30分位で来てくれるという。今日は時間に余裕があつて良かった、JAFの到着を待つ。

・JAFが普通のトラックで来た（修理店がJAFと契約?）。「早いですね、どこから来たの?」「三石から」なかなかハンサムなおじさんだ。「こりゃバッテリー上がりだね」と予期しない言葉。「ヘッドライトもつくしホーンも鳴るよ」「セルはもっと電気を食うよ」と荷台から携帯してきたバッテリーを下ろし繋いだら一発でエンジン始動。なんてこった！お恥ずかしいかぎり、バッテリー上がりだった。バッテリーは一度も交換していないし、カーナビやテレビを付けっぱなし、パソコンも動かしたりしたのが原因か?「内地の車は寒冷地仕様じゃないから小さい、2から3時間は充電しておかなければだめだよ」と言って帰っていった。これでみついしを無事スタート出来た。

・途中浦河のガソリンスタンドで充電依頼し、待っている間に隣にあったセイコマートで明日の食料を買い込んだ。ところが買い物中にスタンドのお兄さんが「充電終了しました。」と呼びに来た。ものの10分も経っていない。JAFのおじさんは2から3時間充電必要と云ったのに、どちらが正しいのか?「時間が短いからただでいいよ」と、申し訳ないからガソリンを入れてあげた。浦河の牧場でおにぎりや昼食を取り楽古山荘へ向かった。



<浦河の牧場で昼食>

・雨はすっかり止んでいるが山はすっぽり雲の中。天馬街道を快走し楽古方面へ右折して少し行くと楽古道の入口の道端に「通行止め」の小さな標識があった。いやな予感を感じながら先へ進むと「楽古山荘へあと6km」の標識があり、特に通行止めの様子もない。林道

はだんだん荒れて狭くなり熊の糞みたいな物もあつたりして寂しく気味の悪い道をどんどん進んだ。突然ゲートが現れ鉄の門ががっちり鎖で閉められている。「通行止め」。ここまで走らせて通行止めかよ！もっと早く止めてくれればいいのに。当然明日の楽古岳は中止せざるを得ない。寂しい山だし、熊も出そうだし中止で良かったかもしれない。もと来た道を引き返した。行く先は明後日予定のアポイ岳。登山口のアポイ公園へと向かった。

・アポイ公園の駐車場に着いたが誰もいない。有料で駐車料金600円と書いてあるが、誰もいないのでそのまま駐車。天気は霧雨が降っていて寒い。やること無いから3時過ぎから車の中で酒を飲み始める。しばらくしてから山口ナンバーのXトレイルで年輩のご夫婦がやってきて、バンガローに入っていった。結局今夜は霧雨の駐車場に私の車一台のみ。今年の山紀行は何となく寂しい感じでスタートした。6時には寝床にはいった。外の気温は14℃と寒い。



<通行止め・ゲートが閉ざされていた>



<小雨のアポイ公園駐車場>

● 7月2日(木) 曇 「アポイ岳」(810.6m)

・朝3時半に目を覚ますと雨は降っていない。4時半に起床。例によってサンドイッチと牛乳で朝食を摂っていると、雲が切れて一部青い空が覗いてきた。こりゃ天気が良くなるかも？ キャンプ場駐車場を出て登山口の駐車場に移動した。朝の支度、登山準備を整えて6時半に出発した。さっきの青空はすっかり消えて雨こそ降っていないが一面の霧だ。

・登山口で山口のご夫婦と一緒にになった。私は少し後からゆっくり登りにかかった。五合目の小屋までの林間に前は結構あったと記憶する花が今回は全く見あたらない。五合目からは明るい尾根に出て、やっと花が現れだした。まずイブキジャコウソウが足下に咲いている。一昨年はここ五合目から眼下に海岸線が良くみえたが、今回は霧の中で全く見えない。



<アポイ岳登山口>

上の方は霧が切れて頂上方面の視界が開けてきた。先のご夫婦はすでに前で見えなくなっているし、他に登山者もいないので、尾根筋を次々に現れる花々を楽しみながら私一人登る。途中から一昨年は行かなかった幌満お花畑をまわる道をとった。鬱蒼とした林の中の細くて荒れたひどい道で、今にも熊が出てきそうな寂しい道を約30分トラバース気味に歩いた。途中太い枝が折れて落ちているのに足を取られ転倒して右ふくらはぎを強打ししばらく立ち上がれなかったが、



<五合目では霧もあがってきた>

痛みに堪えながらやっと幌満お花畑へ到着した。

ここは砂礫地で木が生えていないのですばらしい展望台だ。霧の晴れた遠くに雲海の上に頭を出している日高連峰が連なって見える。昨日登る予定だった楽古岳も目の前にある。



<幌満お花畑からの展望・日高連邦が雲海上へ顔を出している>

・目を地上に移すとお花畑と云うのにそれほど花はなくエゾリムラサキが可憐に咲いている程度。ここにあるといわれるヒダカソウは時期的に遅いか、その他の花も時期がちょっとずれているのかもしれない。



<幌満お花畑>



<エゾリムラサキ>

展望とエゾリムラサキを楽しんでからアポイ山頂目指して登りにかかった。かなりの急登、途中で下ってくる山口のご夫婦とすれ違った。ヒダカソウを見たいと云っているが無理でしょう。今日苫小牧港から船で帰るそうだ。

・山頂では私一人、展望は良くない。15分ほど休んで下りについた。下りでは結構多くのグループとすれ違った。登山口に泊まらずに朝家を出てくるとこのくらいの時間になるのだろう。アポイゼキショウ、チシマキンレイカ、アポイアズマギクなど白や黄色の花が咲く気持ちの良い尾根道を休みも取らずに一気に駆け下り、途中山口のご夫婦を抜き去って無事下山した。下りてみると幌満の道で打撲したふくらはぎが急に痛み出した。この山紀行はまだスタートしたばかりなので大事にならなければいいのだが・・・。



＜チシマキンレイカ＞



＜アポイアズマギク＞

・ビジターセンターへ寄って駐車場代600円を払い、ちょうど居合わせた調査員の方にアポイの花についていろいろ説明していただいた。ヒダカソウは10数年前に札幌のおばさん連が2年に亘って盗掘を繰り返し100株以上（殆ど全て）持って帰った。今年確認できたのは3株だけで、そのうち花を付けたのは1株のみ。もう回復は期待できず、絶滅を待つのみとのこと。とんでもないおばさん達だ。



＜アポイゼキショウ＞

・キャンプ場で下着、シャツ、ズボン、靴下を洗濯し、14時に道の駅「コスモール大樹」を目指して出発した。まず汗を流したいので温泉だ。ぶっ飛ばす大型トラックの後に付いて時速80kmで走り、ナビが計算した半分の時間で晩成温泉に到着した。ここは場末の汚い温泉で入るのに気が引ける。地図を見ると道の駅「忠類」はすぐそばだ。一昨年泊まったが非常に印象が良い駅だ。

・今日の宿泊は忠類と決め忠類目指して車を飛ばし16時過ぎに到着した。ナウマン温泉でゆっくり疲れをとり、少し上にあるキャンプ場へ行って車を止めた。おかげさまで打撲のふくらはぎは大事に至らず殆ど回復した。ここ忠類は道の駅に隣接してパークゴルフ、キャンプ場、炊事場などあるが、すべて無料で使用できる。すばらしいところだ。日本中から車が集まりここに滞在している。

・パソコンに写真を取り込み、あすは誕生日だからホテルに泊まろうと、摩周温泉のホテルニュー子宝に電話したら、あっさりとOK。一泊2食付き6950円で予約完了。これで一安心、ゆっくりと夕食の準備に取りかかった。キャベツ、タマネギを刻み野菜具沢山入りのラーメンが夕食。まずやきとりで乾杯。ビール2缶に酒でほろ酔い、ラーメンを食って8時に就寝。外は気温14℃と寒い。



＜忠類キャンプ場＞



＜道の駅「忠類」＞



＜ナウマン公園＞